

秋伸びの処理
(2度咲き)

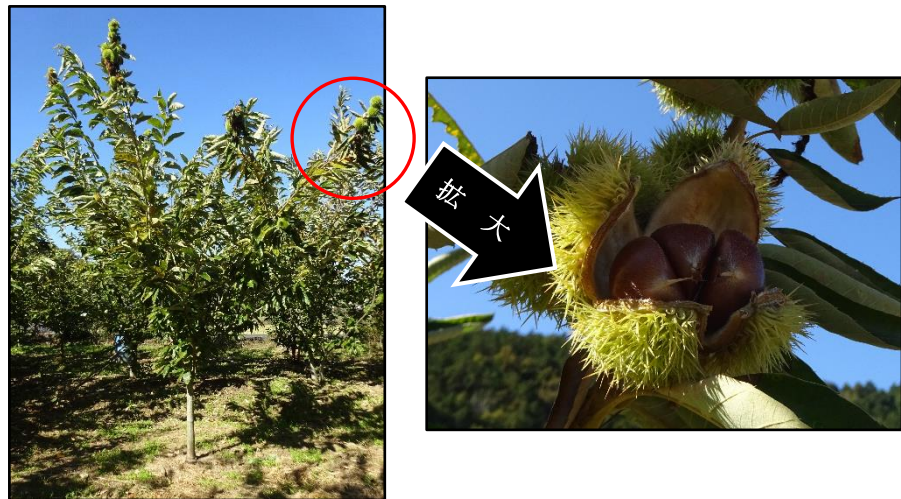


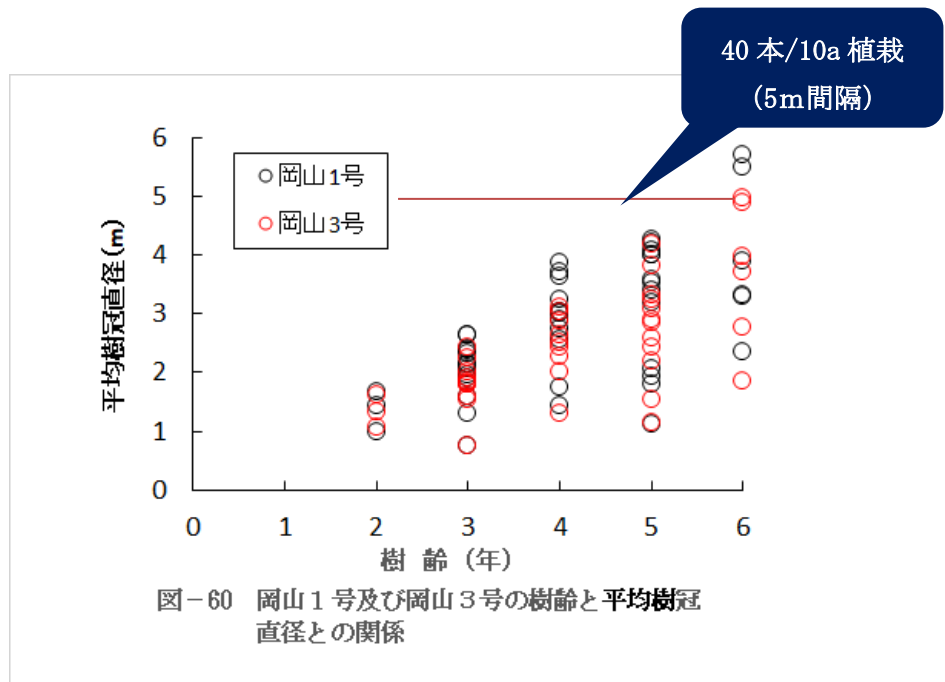
図-59 秋伸び(2度咲き)とクリ結実状況
(勝央町河原地内)

- ・岡山甘栗(岡山1号)は秋伸びしやすいため、冬季のせん定作業で、この部分(図-59 参照)を取り除く。

注)岡山甘栗(岡山1号)は秋伸び(2度咲き)しやすい。一方で、11月以降、2度目の収穫が一部可能である。

6 間 伐

- ・10a 当たり 36~40 本の密植栽培では、植栽 10 年後に 20 本、15 年後に 12~15 本程度まで、縮伐・間伐を実施する。
- ・5 年生樹までは、「岡山 1 号」、「岡山 3 号」ともに、「樹冠直径*」は 5 m 以下であるのに対し、樹齢が 6 年生になると、「樹冠直径」は 5 m より大きい個体が増加し(図-60、-61 参照)、隣接樹同士が接し始めるため、縮伐・間伐を実施する。
- ・地際直径(接ぎ木部位直下)が 15cm 程度に達すると(樹冠直径 5.5~6.0m)、「岡山 1 号」、「岡山 3 号」ともに、第 1 回目の間伐時期に達したと考えられる(図-61、-62 参照)。
- ・縮伐・間伐は、樹に葉が残っている状態(年内)の方が、樹の混み具合がよくわかり、作業効率は高くなる。
- ・樹勢が悪く、今後の収穫が見込めない樹は、早めに間伐し、改植する。
- ・間伐する樹は、下草刈りに支障が生じないように、地際から伐採するか、逆にやや高めに伐採し、目印を付けておく。
- ・間伐及び縮伐を実施した樹の木口面が大きい場合、トップジン M ペースト等の保護剤を塗布する。



- ・樹齢5～6年生では、樹間が5 mあれば、樹と樹はほとんど接していない (図-60～61 参照)。



図-61 樹齢5～6年生の栽培園地
(勝央町河原地内)

- ・樹齢8年生では、「岡山1号」に比べ、「岡山3号」の方が直立性である (図-62 参照)。
- ・地際直径のサイズが判れば、樹冠の大きさがある程度予想できる (図-62～63 参照)。

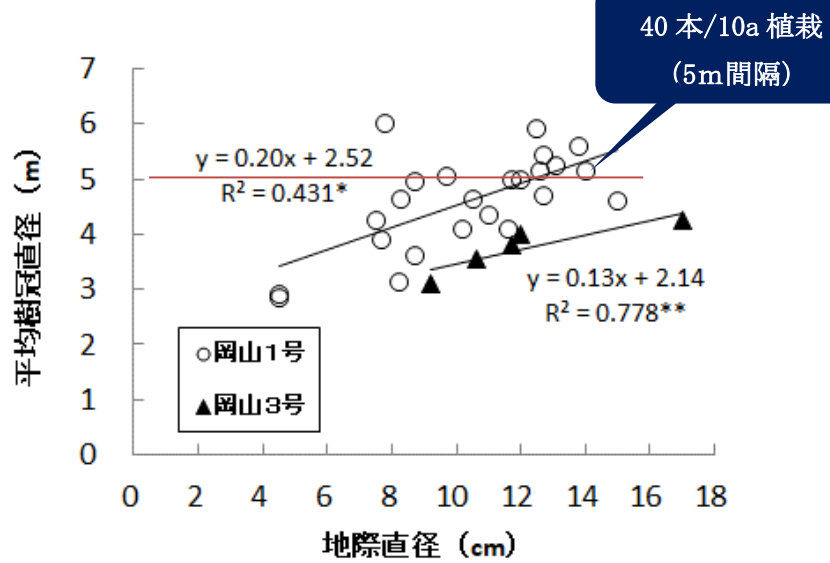


図-62 実証園（樹齢8年生時）における地際直径と樹冠直径との関係

注. **, *は1%, 5%水準でそれぞれ有意であることを示す

- ・ 樹齢8年生に達すると、5m間隔で植栽した場合、樹と樹が接するケースが一部で発生するため、間伐や縮伐を実施する必要がある（図-62 参照）。
- ・ 樹齢12年生に達すると、樹冠の大きさが5～9mにもなり、樹同士が接するため、さらに縮伐・間伐が必要である（図-63～65 参照）。

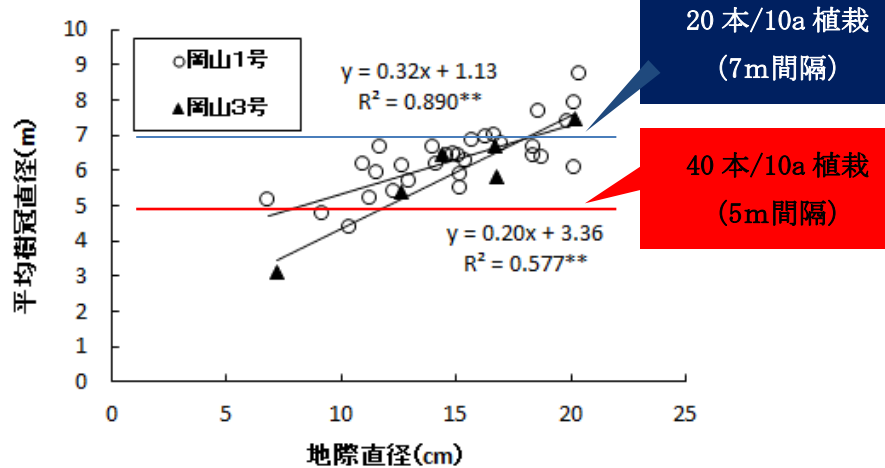


図-63 実証園（樹齢12年生時）における岡山1、3号の地際直径と平均樹冠直径の関係

樹齡 12 年生になると、樹間が 5m では確実に樹と樹が接するため、縮伐・間伐を要する。



図-64 樹齡 12 年生の栽培園地
(県森林研究所内実証園)

落葉前に、間伐すべき樹をあらかじめ決めておくとい

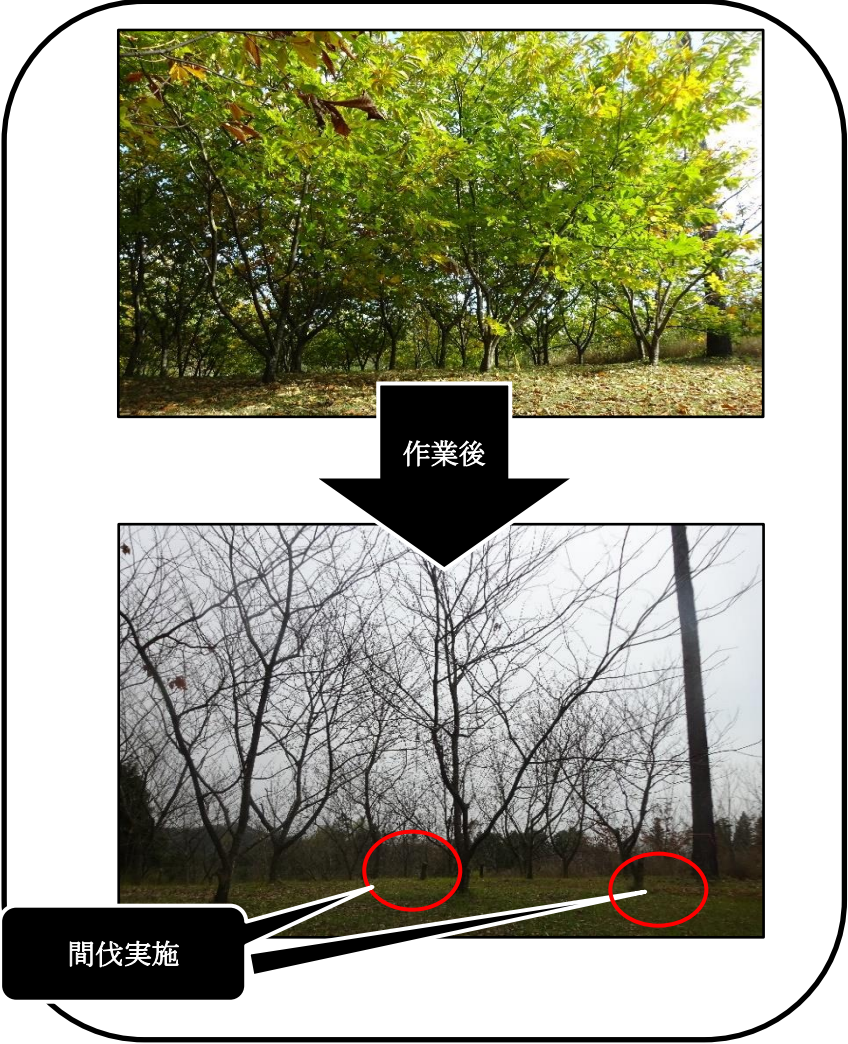


図-65 実証園 (樹齡 13 年生) 間伐前後の状況
(上段：間伐前 H30 年 11 月 下段：間伐後 R1 年 12 月)

- ・樹齢 13 年生になると、樹間が 5 m では樹と樹が接するため、縮伐・間伐を要する（図-65 参照）。
- ・岡山甘栗は、ニホングリに比べ、樹姿が直立性であり、樹形が横方向より上方向に大きくなりやすい。
- ・樹高が一たび大きくなってしまえば、その後、せん定や縮伐により低樹高に誘導するのは大変手間を要するため、毎年、適宜、せん定作業等を実施する。
- ・栽培園地に広さ（ゆとり）がある場合、密植栽培より、樹間 6 m 以上広く確保する方が、樹形を開心形に誘導しやすく、かつ間伐個体数も最小限に抑えることができる。

7 収穫作業

- ・県北部におけるクリ収穫時期は、「岡山 1 号」では 10 月上旬～中旬、「岡山 3 号」では 10 月中旬～下旬である。
- ・「岡山 1 号」は、一部、11 月以降、2 度咲きによる収穫も一部期待できる。
- ・収穫は自然落果によるものを基本とし、落果後は果実品質を保つため、速やかに収穫を行う。
- ・収穫方法は慣行（手作業）、機械（器具）等が挙げられる（表-11、図-66～67 参照）。作業効率だけみると、どの収穫方法も大差はない。
- ・現時点では、生産コストが低いこと（表-12 参照）や、屈まらずに作業ができる点で、簡易な収穫器具を使用する方法が最も有効である（図-67 参照）。

表-11 収穫方法別作業時間の比較

品 種	収穫方法	栽培規模別作業時間			備 考
		(hr/10a)	(hr/50a)	(hr/ha)	
岡山1号	手 作 業	3.7	18.3	36.6	メッシュ:4mm サイズ:6m×12m 収穫機械 収穫器具
	収穫用ネット	3.6	18.0	36.1	
	収穫機械	3.6	18.2	36.3	
	収穫器具	3.5	17.4	34.7	

注)10a当たり岡山1号200kgの収量を想定

表-12 収穫方法別生産コストの比較

品 種	収穫方法	生産コスト			備 考
		(円/10a)	(円/50a)	(円/ha)	
岡山1号	手作業	19,648	98,240	196,480	メッシュ:4mm サイズ:6m×12m 収穫機械 収穫器具
	収穫用ネット	267,350	1,336,749	2,673,498	
	収穫機械	199,499	277,494	374,989	
	収穫器具	55,354	129,891	223,063	

注1)10a当たり岡山1号200kgの収量を想定

2)作業1人当たり1日6時間勤務とし、日公共工事設計労務単価を参考にして16,100円

3)生産コストには労賃、資材費、機械購入費、燃料費をそれぞれ含む

出典：西山（2016b、2017a、2020a）